

## 7月2日からの大雨後の技術対策と今後の日照不足等に備えて

平成30年7月6日  
北海道農政部

全道的に6月中旬から降水量が多く、日照時間が少ない状態が続いており、生育の遅れや収量・品質の低下、病害が多発しやすい状況となっています。また、道央・道北を中心に7月2～5日にかけての大雨により、ほ場への浸水・冠水等が発生しています。

札幌管区気象台が7月5日に発表した1ヶ月予報によると向こう1ヶ月の天候は降雨や日照不足が予想されていることから、気象の推移と生育状況に十分留意し、以下の技術対策の徹底により天候不順の影響緩和を図ってください。

札幌管区気象台ホームページ <http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>

### こ れ か ら の 注 意 項 目

- 1 滞水ほ場では、排水対策を行い、ほ場乾燥を促す。
- 2 殺菌剤の散布には、収穫前の使用期限を遵守する。
- 3 あせりからくる農作業事故に注意する。

#### 第1 共通事項

- 1 大雨により浸水・冠水したほ場や滞水しているほ場では、溝切りなどの排水対策を実施するとともに、明渠や排水溝への排水を確認する。土砂が流入している場合は、可能な限り速やかに土砂等を取り除き、乾燥を促す。
- 2 農作物については、病害の発生に注意する。必要に応じ適正な防除を行う。農薬の使用に当たっては、病虫害防除基準を遵守する。また、隣接する他の作物に薬剤がドリフト（目的外飛散）しないよう注意する。
- 3 降雨後のほ場確認は、単独での行動を避ける。また、道路では路肩が、ほ場ではのり面や周辺の地盤が緩んだり滑りやすくなっている場合があるので、車両の走行は速度を落とし十分注意する。
- 4 浸水・冠水の被害を受けた農作業機械・設備、自動車等は、販売店等に依頼して早急に動作確認を行う。水抜きができていない状態でいきなりエンジンを始動したり、電源を入れたりすると、重大な故障や事故につながる恐れがあるので、注意する。特に電子基板が入っている機械ではショートにより部品の全交換が必要となったり、作業機ではブレーキに泥が入り、効かないことがあるので注意する。

## 第2 水 稲

- 1 浸水・冠水した水田は、速やかに排水口の開放や畦畔を切る等の排水対策を行う。
- 2 泥流や土砂が流れ込んだ水田では、溝切りや明きよを施工し、土壌の乾燥を図る。
- 3 冠水した茎や葉に泥が付着している場合は、可能であれば、防除機（鉄砲ノズル等）で水量を多くして洗浄する。
- 4 崩れた畦畔や土砂で埋没した用排水路・水口は、水が引いた後、速やかに改修、補修する。また、用排水路の草刈り及び水路内のゴミ上げを行い水の流れを確保する。
- 5 ほ場内に流入した異物は、管理・収穫作業等に支障がないよう、ほ場の外に除去する。
- 6 低温が予想される場合は、深水管理で幼穂を保護する。
- 7 浸水・冠水した水田では、いもち病が発生しやすい傾向にあるので、こまめな観察に心掛け、万が一いもち病の発生を確認したら直ちに防除する。

## 第3 畑 作

- 1 浸水・冠水したほ場や滞水しているほ場では、溝切りなどの表面水の排水対策を実施する。
- 2 次の病害の発生に留意し、ほ場の乾燥を待って早急に適正防除を行う。なお、農薬の使用に当たっては、病虫害防除基準を遵守する。
  - ① 小 麦 : 赤かび病
  - ② 豆 類 : べと病（大豆）、茎疫病
  - ③ ばれいしょ : 疫病（塊茎腐敗）、菌核病、軟腐病
  - ④ てんさい : 褐斑病、根腐病、葉腐病

## 第4 野 菜

- 1 浸水・冠水の被害を受けたほ場では、迅速な排水対策と被害作物と被害部の除去、病害防除を実施し、品質低下を最小限にとどめる。
- 2 土壌過湿の長期化による軟弱化や病害発生等による品質低下を回避するため、ハウス内外の停滞水の除去やマルチフィルム・除草シートのまくり上げを行う。さらに通風換気に努め、積極的に湿度を低下させる。
- 3 野菜類では、根傷みや草勢低下、多湿条件の重なりから各種病害が多発する恐れがあるので、病虫害防除基準を遵守して薬剤散布を行う。この場合、薬剤散布日から収穫予定日までの日数および使用回数を遵守する。
- 4 トマト・ミニトマトは、裂果や草勢の低下が懸念されるため、必要に応じて花房を取り除き、葉面散布を行う。また、灰色かび病、疫病、葉かび病の病害防除を行う。
- 5 きゅうりは、草勢を維持するため、摘葉・整枝作業を適切に行い、葉面散布、着果節位の適正化を行う。また、褐斑病、灰色かび病、べと病の防除を行う。特に褐斑病は病勢の進展が早いので、発病葉を発見した場合は速やかに除去・搬出する。
- 6 かぼちゃは、土壌の過湿によっていわゆる「ガンベ」が発生する恐れがあるので、溝切りなど表面排水に努めるとともに、つる枯病や疫病、べと病が発生しやすい条件なので防除を行う。また、これから開花を迎える作型では、人工交配を午前中に行い、着果を安定させる。
- 7 たまねぎは、土壌の過湿により白斑葉枯病、小菌核病、軟腐病、貯蔵腐敗（りん片腐敗病・灰色腐敗病）が発生し易いので、ほ場の表面排水対策を急ぎ、防除を実施する。

- 8 ながねぎは、畝間の排水に努め、管理機が入れるようになったら軽く培土し、べと病・黒斑病の防除を行う。
- 9 メロンは、根傷みにより草勢の低下がみられる場合は葉面散布を行い、草勢の回復を図る。また、これから着果させる作型では、草勢に応じて節位を上げて着果させる。
- 10 土壌の過湿によって、だいこんの裂根や横しま症状、にんじんの裂根、キャベツの裂球等が多発する恐れがある。溝切りなど表面排水に努め、収穫期に達したものからできるだけ早く収穫するとともに、品質の劣悪なものが混入しないよう厳しく選別する。
- 11 にんじんは裂根以外にも土壌水分過多で、着色不良、軟腐病・根腐病の発生が多くなる。また肥料が流亡した場合は、黒葉枯病の発生も多くなるので防除を行う。さらに傾斜ほ場など土壌流亡のあるほ場では、青首の発生が多くなるため、ほ場乾燥後に培土を行う。

### 第3 花 き

- 1 浸水・冠水の被害を受けたほ場では、迅速な排水対策と病害防除を実施し、品質低下を最小限にとどめる。
- 2 土壌過湿の長期化による軟弱化や病害発生等による品質低下を回避するため、ハウス内外の停滞水の除去やマルチフィルムのまくり上げ、通風換気に努め、積極的に土壌の乾燥化を図る。
- 3 過湿によって灰色かび病等の病害発生が多くなるので、早めに薬剤防除を実施する。また、ハウス内が乾きにくい状況が予想される場合は、くん煙剤等を利用する。
- 4 収穫・出荷については、土壌水分が多いと採花後の水揚げが劣ることがあるので、品質保持剤処理には十分注意する。被害軽微で出荷する場合は、信用を損なわないよう適正な格付けと検品の徹底に努める。

### 第4 果 樹

- 1 着果状況に応じた的確な摘果を実施するとともに、徒長枝や密生枝の剪定により受光確保に努める。
- 2 りんごの黒星病、斑点落葉病、炭疽病、すす点・すす斑病、ぶどうの灰色かび病、べと病、ブルーンの灰星病等、過湿による病害の発生に注意し、速やかに薬剤散布を行う。

### 第5 草地及び飼料作物

- 1 滞水した草地・サイレージ用とうもろこしほ場では、排水溝を掘るなど速やかに排水する。
- 2 一番草の収穫が遅れているほ場では、作業機が入れるようになったら、速やかに収穫調製作業を行う。ただし、収穫前に土砂が付着した牧草は、サイレージ等の発酵飼料への調製は避ける。
- 3 新播草地などで、冠水により表土が流出して裸地化した部分が大きいほ場は、牧草の追播を実施し、植生改善を図る。
- 4 サイロ周辺やロールパック置き場が滞水した場合は、溝切りや水中ポンプにより速やかに排水する。
- 5 雨水の浸み込んだロールベール乾草やサイレージ、冠水したスタックやバンカーサイロは品質を確認し、飼料用として適当でない場合は、家畜への給与を避ける。